

広報担当が取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。 **カシャ!!**
 情報交流課 ☎0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



事業所利用者に演奏を披露する児童

私たちの演奏で元気になって

■福祉活動の一環で寄付および楽器演奏披露

2月17日、勝間田小学校の5年生が福祉活動の一環として集めたアルミ缶の収益で購入したトイレットペーパーと募金を地域の通所介護事業所「憩の家みち（石津道弘家長）」に寄付しました。

事業所を訪れた児童らは、「自分たちの演奏を聞いて元気になってほしい」とこの日のために練習を重ねてきた楽器演奏を披露しました。

児童からプレゼントを受けた石津家長は「心温まる演奏と寄付をいただき、ありがとうございました」と感謝を述べました。

聖火リレーのトーチがやってきた

■聖火リレートーチ巡回展示

さざんかで2月12日、オリンピック・パラリンピック聖火リレートーチの展示が行われ、650人以上の人が見学に訪れました。

これは、県内における機運を醸成するため行われている巡回展示の一環で、聖火リレートーチや説明パネルなどを展示。展示に先立ち、静波保育園の園児らによる除幕式も開催されました。

会場を訪れた人は「とてもきれい。間近で本物のトーチを見て、オリンピックをぜひ開催してほしいと改めて感じた」と目を輝かせていました。



オリンピック・パラリンピックそれぞれのトーチを鑑賞する園児ら

戦国時代を生き抜いた女性たちを知る

■男と女のフォーラム

2月23日に「男と女のフォーラム」が相良総合センターい〜らで開かれ、「戦国の女性たちと城」と題した講演会が行われました。

講師に大河ドラマなど、多くの作品で時代考証を務めている静岡大学名誉教授の小和田哲男氏を迎え、時代考証をする際の裏話をはじめ、戦国時代の女性たちの役割や、当時の夫婦関係などについて講話しました。参加者は、戦国時代を生き抜いた女性たちのその重要性について、さまざまな視点から学びました。



戦国の女性たちについて講話する小和田名誉教授



色鮮やかにずらりと展示された会員の力作

絵画や手芸などの力作ずらり

■「地頭方ビタミンスクール」作品展

認知症予防教室「地頭方ビタミンスクール」（山下公夫会長、会員45人）の作品展が、1月末～2月末まで、トーク地頭方で開催されました。

同団体では認知症予防のため、毎週金曜日に、絵画や手芸などの作品制作や軽い運動などを行っています。例年は地元のイベント「梅っこビタミンフェスタ」で作品を展示していましたが、本年はコロナ禍によりイベントが中止に。会員が作った自慢の力作を披露する場をつくらうと、作品の展示を行いました。



写真左から島田土木事務所の佐藤所長、関ダイナムの小山田さん、杉本市長

道路をもっときれいに

■道路美化団体として同意書締結

2月9日に、パチンコ店「株式会社ダイナム 榎原店」（細江区）と県島田土木事務所、本市との間で「しずおかアダプトロード・プログラム」の同意書の締結式が行われました。

同店は市内10団体目の締結団体となりますが、市道を活動対象としていただくのは市内初です。主に店舗周辺の国道150号と市道のゴミ拾いを行っていただきます。

市では今後も、三者で協力して道路美化活動に取り組んでいきます。

日本音楽の良さを味わう

■お琴演奏鑑賞&演奏体験

萩間小学校で2月9日、お琴の演奏鑑賞&演奏体験が行われ、4年生21人が演奏を楽しみました。

この日は、地元有志でお琴の演奏をしている川本道代さん、池田三四子さん、大石温子さんが、児童たちに本物の琴の音色や楽器に触れ、日本音楽の良さを味わってもらおうと、演奏を披露。その後、川本さんらの指導のもと、琴の演奏体験をしました。本物の琴を体験した児童は「CDで聴くより実際の音はきれい。難しかったけどまたやってみたい」と話しました。



川本先生の指導を受けながら琴をひく児童

白やピンクの梅の花を楽しむ

■相良梅園開園

2月4日、相良梅園の開園に合わせ、静波保育園の園児約60人がお花見に訪れました。

約1.5ヘクタールの敷地には、毎年、寒紅梅や白加賀、南高、しだれ梅など20品種、約700本の色鮮やかな梅の花が咲き、3月上旬まで来場者を楽しませていきます。

来園した園児たちは「お花がきれい。甘い香りがする」と話し、梅の花を楽しみました。

また、同園では地場産品の販売のほか、入場者に自家製の梅干しがプレゼントされました。



お花見に訪れた静波保育園の園児



事業者からお弁当を受け取る看護師

榎原総合病院医療従事者にエールを!

■市商工会員の事業者による弁当提供事業

新型コロナウイルス感染症対策に日夜取り組み、市民生活を守ってくださっている榎原総合病院勤務者の皆さんを応援しようと、市商工会員の事業者が病院職員に弁当を提供しました。

18の協力事業者が分担し、2月上旬の9日間、1日2回、延べ532個の弁当を病院職員に配付。弁当を受け取った看護師は「地元の病院として、こうして地域の皆さまに応援してもらってとても励みになる。これからも精いっぱい頑張りたい」と笑顔で感謝しました。